

定 款

社会福祉法人 小田原福社会

社会福祉法人小田原福社会定款

昭和52年6月1日施行

昭和57年9月6日改正（厚生省社第 第869号）

昭和63年2月16日改正（神奈川県指令老福 第194号）

平成2年9月3日改正（神奈川県指令老福 第119号）

平成3年9月20日改正（神奈川県指令老福 第111号）

平成6年1月19日改正（神奈川県指令高施 第217号）

平成7年12月15日改正（神奈川県指令高施 第134号）

平成9年2月26日改正（神奈川県指令高施 第341号）

平成12年3月9日改正（神奈川県指令老福 第435号）

平成18年3月30日改正（神奈川県指令福監 第987号）

平成18年5月8日改正（神奈川県指令福監 第48号）

平成18年10月25日改正（神奈川県指令福監 第475号）

平成19年 3月 1日改正（福監 第895号）

平成20年 2月28日改正（神奈川県指令福監 第1023号）

平成23年 3月22日改正（神奈川県指令福監 第786号）

平成23年 6月17日改正（神奈川県指令福監 第153号）

平成23年 9月26日改正（福監第403号）

平成24年 5月 7日改正（福監第51号）

平成25年 3月18日改正（福監第1242号）

平成25年 6月28日改正（介保第57号）

平成26年10月15日改正（介保第153号）

平成27年 3月 6日改正（介保第281号）

平成28年 3月 8日改正（介保第326号）

平成28年 6月20日改正（地福第129号）

平成28年10月12日改正（地福第393号）

平成29年 3月31日改正（地福第931号）

第1章 総則

(目的)

第1条 この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

(1) 第一種社会福祉事業

特別養護老人ホームの経営

(2) 第二種社会福祉事業

イ 老人居宅介護等事業の経営

ロ 障害福祉サービス事業の経営

ハ 老人デイサービスセンターの経営

ニ 老人デイサービス事業の経営

ホ 老人短期入所事業の経営

ヘ 認知症対応型老人共同生活援助事業の経営

ト 生活困難者に対する相談支援事業の経営

チ 小規模多機能型居宅介護事業の経営

リ 特定相談支援事業の経営

(名称)

第2条 この法人は、社会福祉法人小田原福社会という。

(経営の原則)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上ならびに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

2 この法人は、地域社会に貢献する取組として、地域の独居高齢者、子育て世帯、経済的に困窮する者等を支援するため、無料又は低額な料金を福祉サービスを積極的に提供するものとする。

(事務所の所在地)

第4条 この法人の事務所を神奈川県小田原市穴部377番地に置く。

第2章 評議員（評議員の定数）

第5条 この法人に評議員8名以上10名以内を置く。

（評議員の選任及び解任）

第6条 この法人に評議員選任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任委員会において行う。

- 2 評議員選任委員会は、監事1名、事務局員1名、外部委員1名の合計3名で構成する。
- 3 選任候補者の推薦及び解任の提案は、理事会が行う。評議員選任委員会の運営についての細則は、理事会において定める。
- 4 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。
- 5 評議員選任委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし外部委員が出席し、かつ、外部委員が賛成することを要する。

（評議員の任期）

第7条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

- 2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとすることができる。
- 3 評議員は、第5条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

（評議員の報酬等）

第8条 評議員に対して、各年度の総額が500,000円を超えない範囲で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬として支給することができる。

第3章 評議員会

（構成）

第9条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

- 2 評議員に議長を置き、その都度互選によって定める。

(権限)

第10条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準
- (4) 計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分
- (8) 社会福祉充実計画の承認
- (9) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第11条 評議員会は、定時評議員会として毎年度6月に1回開催するほか、3月及び必要がある場合に開催する。

(招集)

第12条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(決議)

第13条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任
- (2) 定款の変更
- (3) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第15条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

4 第1項及び第2項の規定にかかわらず、評議員（当該事項について

議決に加わることができるものに限る。)の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

第14条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 議長及び会議に出席した評議員のうちから選出された議事録署名人2名がこれに記名押印する。

第4章 役員及び職員

(役員の数)

第15条 この法人には、次の役員を置く。

(1) 理事 7名

(2) 監事 2名

2 理事のうち1名を理事長とする。

3 理事長以外の理事のうち、1名を常務理事とすることができる。

4 理事長以外の理事のうち、1名を会長とすることができる。

5 第3項の常務理事をもって社会福祉法第45条の16第2項第2号の業務執行理事とする。

(役員を選任)

第16条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

2 理事長及び業務執行理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(理事の職務及び権限)

第17条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、業務執行理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。

3 理事長及び業務執行理事は、毎会計年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第18条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第19条 理事又は監事の任期は、選任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとすることができる。

3 理事又は監事は、第15条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第20条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

(1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員報酬等)

第21条 理事及び監事に対して、評議員会において別に定める総額の範囲内で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

第22条 この法人に、職員を置く。

2 この法人の設置経営する施設の長他の重要な職員（以下「施設長等」という。）は、理事会において、選任及び解任する。

3 施設長等以外の職員は、理事長が任免する。

第5章 理事会

(構成)

第23条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

2 理事会に議長を置き、その都度互選によって定める。

(権限)

第24条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては理事長が専決し、これを理事会に報告する。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長及び業務執行理事の選定及び解職

(招集)

第25条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

(決議)

第26条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く。）は、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第27条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

- 2 出席した理事及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

第6章 資産及び会計（資産の区分）

第28条 この法人の資産は、これを分けて基本財産、その他財産、公益事業用財産及び収益事業用財産の4種とする。

- 2 基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。

- (1) 定期預金 1,000,000円
- (2) 神奈川県小田原市穴部字中尾377番地外所在の鉄筋コンクリート、鉄骨造、陸屋根、亜鉛メッキ鋼板、ルーフィング葺、地下1階付3階建特別養護老人ホーム潤生園建物1棟(5,071.78平方メートル)
- (3) 神奈川県小田原市穴部字中尾376番所在の特別養護老人ホーム潤生園敷地(376平方メートル)

- (4) 神奈川県小田原市穴部字中尾377番の1所在の特別養護老人ホーム潤生園
敷地 (3,710 平方メートル)
 - (5) 神奈川県小田原市穴部字中尾378番4所在の特別養護老人ホーム潤生園
敷地 (674.58 平方メートル)
 - (6) 神奈川県小田原市穴部字中尾378番5所在の特別養護老人ホーム潤生園
敷地 (255.23 平方メートル)
 - (7) 神奈川県小田原市穴部字中尾378番6所在の特別養護老人ホーム潤生園
敷地 (903.94 平方メートル)
 - (8) 神奈川県小田原市曾比字藤源河原1799番所在の老人デイサービスセンター潤生園やすらぎの家栢山
敷地 (333.88 平方メートル)
 - (9) 神奈川県小田原市曾比字藤源河原1799番地所在の木造スレート葺2階建老人デイサービスセンター潤生園やすらぎの家栢山
建物1棟 (209.26 平方メートル)
 - (10) 神奈川県小田原市成田字中ノ町717番1・718番1所在の老人デイサービスセンター潤生園やすらぎの家豊川
敷地 (324.54 平方メートル)
 - (11) 神奈川県小田原市成田字中ノ町717番地1・718番地所在の木造瓦葺2階建老人デイサービスセンター潤生園やすらぎの家豊川
建物1棟 (183.47 平方メートル)
 - (12) 神奈川県小田原市蓮正寺字中州997番1所在の老人デイサービスセンター・老人短期入所事業潤生園在宅介護総合センターれんげの里
敷地 (3,528.56 平方メートル)
 - (13) 神奈川県小田原市蓮正寺字中州997番地1所在の鉄筋コンクリート造合金メッキ鋼板ぶき2階建老人デイサービスセンター・老人短期入所事業潤生園在宅介護総合センターれんげの里
建物1棟 (2,398.81 平方メートル)
- 同所所在の附属建物 (鉄筋コンクリート造合金メッキ鋼板ぶき平家建ポンプ室)
1棟 (10.56 平方メートル)
- (14) 神奈川県小田原市田島字根岸1205番1所在の認知症対応型老

人共同生活援助事業 潤生園 よりあいどころ 田島老人デイサービスセンター 潤生園 やすらぎの家 田島
敷地 (1083.87 平方メートル)

- (15) 神奈川県小田原市田島字根岸 1205 番地 1 所在の軽量鉄骨造陸屋根 2 階建老人デイサービスセンター 潤生園 やすらぎの家 田島
建物 1 棟 (164.37 平方メートル)
同所所在の附属建物 (木造合金メッキ鋼板ぶき 2 階建 認知症対応型 老人共同生活援助事業 潤生園 よりあいどころ 田島)
1 棟 (504.68 平方メートル)
- (16) 神奈川県小田原市蓮正寺字中州 993 番地 3 所在の木造スレートぶき平家建 小規模多機能型居宅介護事業 潤生園 みんなの家 ほたるだ
建物 1 棟 (389.10 平方メートル)
- (17) 神奈川県南足柄市広町字下滝下 530 番地外所在の木造合金メッキ鋼板ぶき平家建 特別養護老人ホーム潤生園 みんなの家 南足柄
建物 1 棟 (1,431.81 平方メートル)
- (18) 神奈川県小田原市田島字堂ノ前 1176 番 1 所在の小規模多機能型居宅介護事業 潤生園 みんなの家 たじま
敷地 (641 平方メートル)
- (19) 神奈川県小田原市田島字堂ノ前 1177 番所在の小規模多機能型居宅介護事業 潤生園 みんなの家 たじま
敷地 (79 平方メートル)
- (20) 神奈川県小田原市田島字堂ノ前 1177 番 2 所在の小規模多機能型居宅介護事業 潤生園 みんなの家 たじま
敷地 (42 平方メートル)
- (21) 神奈川県小田原市田島字堂ノ前 1176 番地 1 外所在の木造合金メッキ鋼板ぶき平家建 小規模多機能型居宅介護事業 潤生園 みんなの家 たじま
建物 1 棟 (469.91 平方メートル)

- 3 その他財産は、基本財産、公益事業用財産及び収益事業用財産以外の財産とする。
- 4 公益事業用財産及び収益事業用財産は、第 36 条に掲げる公益を目的とする事業及び第 37 条に掲げる収益を目的とする事業の用に供する財産とする。
- 5 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第 2 項に掲げる

ため、必要な手続をとらなければならない。

(基本財産の処分)

第29条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事会及び評議員会の承認を得て、神奈川県知事の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、神奈川県知事の承認は必要としない。

- (1) 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合
- (2) 独立行政法人福祉医療機構と協調融資（独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。）に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合（協調融資に係る担保に限る。）

(資産の管理)

第30条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。

- 2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。
- 3 前項の規定にかかわらず、基本財産以外の資産で現金の場合については、理事会の議決を経て、株式等に換えて保管することができる。

(事業計画及び収支予算)

第31条 この法人の事業計画書及び収支予算書については、毎会計年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の決議を経て、評議員会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

- 2 前項の書類については、主たる事務所に、当該会計年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第32条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
 - (2) 事業報告の附属明細書
 - (3) 貸借対照表
 - (4) 収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）
 - (5) 貸借対照表及び収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）の附属明細書
 - (6) 財産目録
- 2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6

号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
- (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
- (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
- (4) 事業の概要等を記載した書類

(会計年度)

第33条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第34条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

(臨機の措置)

第35条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意がなければならない。

第7章 公益を目的とする事業

(種別)

第36条 この法人は、社会福祉法第26条の規定により、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することなどを目的として、次の事業を行う。

- (1) 居宅介護支援の事業
- (2) 介護職員初任者研修の事業
- (3) 実務者研修の事業
- (4) 地域包括支援センターの事業
- (5) 訪問看護の事業
- (6) サービス付き高齢者向け住宅の事業

- (7) 福祉用具貸与の事業
- (8) 福祉用具販売の事業
- (9) ガイドヘルパー養成研修の事業
- (10) 障害者居宅介護従業者基礎研修等の事業
- (11) 介護予防・日常生活支援総合事業
- (12) 福祉有償運送事業
- (13) 福祉移送運転者講習の事業

2 前項の事業の運営に関する事項については、理事総数の3分の2以上の同意を得なければならない。

第8章 収益を目的とする事業

(種別)

第37条 この法人は、社会福祉法第26条の規定により、次の事業を行う。

- (1) 福祉用具貸与の事業（介護保険法第8条第12項に規定するものを除く）
- (2) 福祉用具・用品販売の事業（介護保険法第8条第13項に規定するものを除く）
- (3) 住宅改修の事業
- (4) 不動産・駐車場賃貸の事業

2 前項の事業の運営に関する事項については、理事総数の3分の2以上の同意を得なければならない。

(収益の処分)

第38条 前条の規定によって行う事業から生じた収益は、この法人の行う社会福祉事業又は公益事業（社会福祉法施行令（昭和33年政令第185号）第14条及び平成14年厚生労働省告示第283号に掲げるものに限る。）に充てるものとする。

第9章 解散

(解散)

第39条 この法人は、社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第40条 解散（合併又は破産による解散を除く。）した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人並びに社会福祉事業を行

う学校法人及び公益財団法人のうちから選出されたものに帰属する。

第10章 定款の変更

(定款の変更)

- 第41条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、神奈川県知事の認可（社会福祉法第45条の36第2項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。
- 2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を神奈川県知事に届け出なければならない。

第11章 公告の方法その他

(公告の方法)

- 第42条 この法人の公告は、社会福祉法人小田原福祉会の掲示場に掲示するとともに、官報、新聞又は電子公告に掲載して行う。

(施行細則)

- 第43条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

附 則

- 1 この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款に基づき、役員を選任を行うものとする。

理事長 時田 純
理 事 小濱 新次
 〃 大内 行雄
 〃 国原 郁和
 〃 真壁 賢二
 〃 藤本 三郎
監 事 内田 晃
 〃 露木 長治

- 2 この定款は平成29年4月1日から施行する。

附 則

この定款は平成29年6月16日から施行する。

附 則

この定款は平成30年1月4日から施行する。

附 則

この定款は平成30年6月7日から施行する。

附 則

この定款は平成30年7月26日から施行する。